

公立大学法人宮崎公立大学
平成27年度業務実績に関する評価結果

平成28年8月

宮崎市公立大学法人評価委員会

目次

1	事業年度ごとの業務実績の評価方法	…	1
2	大項目別評価	…	2
1	第2 教育研究等の質の向上	…	2
2	第3 地域貢献、国際化	…	4
3	第4 業務運営の改善及び効率化	…	6
4	第5 財務内容の改善	…	7
5	第6 自己点検・評価及び情報公開・提供	…	8
6	第7 その他業務運営	…	9
3	平成27年度業務実績評価に係る項目別評価結果総括表	…	10
4	全体評価	…	11

1 事業年度ごとの業務実績の評価方法

「項目別評価（小項目別と大項目別あり）」及び「全体評価」により構成する。宮崎市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」）は、公立大学法人（以下「公立大」）の作成した実績報告書をもとに、公立大の意見を聴取しながら評価を行う。

(1) 小項目別評価（基礎資料）

年度計画の小項目記載事項ごとに、事業の進捗状況・実績について以下の4段階により評価を行う。公立大による自己評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を記載する。

また、特記事項等についても記載する。

Ⅳ	年度計画を上回って実施している
Ⅲ	年度計画を順調に実施している
Ⅱ	年度計画を十分には実施できていない
Ⅰ	年度計画を実施していない

(2) 大項目別評価

(1)の結果を基礎とし、年度計画の大項目（*）ごとに、以下の5段階により、その進捗状況・実績について評価を行う。

なお、特筆すべき点や遅れている点についてコメントを付す。

S	(秀)	特筆すべき進行状況にある（特に認める場合）
A	(優)	計画どおり（すべてⅢ～Ⅳ）
B	(良)	おおむね計画どおり（Ⅲ～Ⅳが9割以上）
C	(可)	やや遅れている（Ⅲ～Ⅳが9割未満）
D	(不可)	重大な改善事項がある（特に認める場合）

*大項目

教育研究等の質の向上／地域貢献、国際化／業務運営の改善及び効率化
／財務内容の改善／自己点検・評価及び情報公開・提供
／その他業務運営

(3) 全体評価

評価委員会において、「項目別評価」の結果を踏まえ、公立大の業務全体の実績評価について、「記述式」により、年度計画の取り組みを総括する。

また、地域の高等教育機関として更に発展するために、大学の特色ある取り組みやさまざまな工夫について積極的に評価し、広く公表する。

なお、必要に応じて組織や業務の課題や改善点等も記述する。

2 大項目別評価

第2 教育研究等の質の向上

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B (良) おおむね計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数38項目に対し、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したものが9割以上となったことから、B評価(おおむね計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.1~38)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
38	7	30	1	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき優れた事項

【No. 1: 新カリキュラム導入への対応】

- ・ 様々な問題・課題が検討され、前倒しで対応されていることは大いに評価できると思う。
- ・ 出席管理システムの導入は評価する。

【No. 15: 新しいツールを用いた広報活動の展開等】

- ・ 前年度も評価4だったが、本年度は一段と充実した気がする。

【No. 38: 大学の個性と魅力の伸長につながる制度等の見直しの検討】

- ・ 客観的な視点で大学を振り返る機会になり、学生にとってもメリットとなる事業展開として評価する。

イ 改善すべき事項

【No. 18: 研究発表会の実施及び効果の検証】

- ・ 前年度は評価4だったが、本年度は学内実施のため参加者が減少したことで、評価3になったと思われる。発表対象者が多くて学内実施になったと思われるが、検討の余地があると思う。

【No. 26: 専攻毎の履修相談体制の検討】

- ・ 履修登録を間違うと取り返しが難しいことがあるので、学校からの説明会や相談体制の充実に期待する。

ウ その他の特記事項

【No. 24：学生の退学に関するデータの収集及び分析】

- ・数値で検証されている点は説得力があり評価できる。学生のフォローへ結びつくことを期待する。

【No. 38：大学の個性と魅力の伸長につながる制度等の見直しの検討】

- ・みやざき COC+事業については、研究領域の充実も含め、さらに推進していただきたい。

第3 地域貢献、国際化

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

C (可) やや遅れている

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数15項目に対し、3項目が「年度計画を上回って実施している（Ⅳ評価）」、10項目が「年度計画を順調に実施している（Ⅲ評価）」、2項目が「年度計画を十分には実施できていない（Ⅱ評価）」と評価した。全体に占めるⅢ～Ⅳの割合が9割未満となったのでC評価（やや遅れている）とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.39～53)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
15	3	10	2	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき優れた事項

【No. 45：各種講座の企画運営】

- ・参加者が多いのは、テーマがニーズにマッチしていたことであろうが、併せて、参加者に対する職員や協力者の心配りも効果を上げていると思われる。市民とともにある大学として評価する。

イ 改善すべき事項

【No. 39：地域貢献事業の推進】

- ・工学や農学などの応用的分野との違いを意識し、人文系大学ならではの地域をフィールドにした研究内容の充実とフィードバックを期待したい。

【No. 41：地方創生に関する取組】

- ・地方創生のための県内就職推進と大学の本来の役割の関係についてはさらによく考える必要があるのではないか。守旧的考えに固執するのはよくないし、現実的対応も重要であるが、人文系大学としてのアイデンティティは何なのかについて自問する姿勢は失ってほしくない。

【No. 42：地域研究センターの機能強化等】

- ・研究領域の強化が学生への教育内容の改善につながり、そのことが志望者増をもたらすといった本来的なあり方を目指すためにも重要な分野と思われる。

【No. 48：私費留学に関するガイドブックの充実】

- ・留学支援については県内の他大学の取組等も参考に、さらに踏み込んだ改善が必要と思われる。

【No. 51：国際交流支援及び留学支援】

- ・上記に同じ

ウ その他の特記事項

- ・特になし

第4 業務運営の改善及び効率化

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数19項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を上回って実施している(Ⅳ評価)」又は「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.54~72)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
19	1	18	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき優れた事項

- ・特になし

イ 改善すべき事項

【No. 55 : 新ネットワークシステム等の安定した運用】

- ・改めて、外部情報通信ネットワーク(インターネットやEメール等)と校内ネットワークは完全に遮断して、サイバーセキュリティ対策を十分図っていただきたい。

ウ その他の特記事項

- ・特になし

第5 財務内容の改善

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数4項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.73~76)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
4	0	4	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき優れた事項

・特になし

イ 改善すべき事項

・特になし

ウ その他の特記事項

・特になし

第6 自己点検・評価及び情報公開・提供

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数3項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.77~79)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
3	0	3	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき優れた事項

・特になし

イ 改善すべき事項

・特になし

ウ その他の特記事項

・特になし

第7 その他業務運営

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (優) 計画どおり

イ 判断理由

小項目別の評価を集計した結果、小項目数6項目に対し、その全てにおいて、「年度計画を順調に実施している(Ⅲ評価)」と評価したことから、A評価(計画どおり)とする。

[参考] 小項目別評価の集計結果 (No.80~85)

小項目数	評価結果			
	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ
6	0	6	0	0

(2) 評価委員会の意見等

ア 特筆すべき優れた事項

- ・特になし

イ 改善すべき事項

- ・特になし

ウ その他の特記事項

- ・特になし

3 平成27年度業務実績評価に係る項目別評価結果総括表

対 象 区 分		平成27年度計画										
(大項目)	(中項目) (小項目)	項目数	評価別内訳				評価別の構成割合(%)				計	平均値
			IV	III	II	I	IV	III	II	I		
第2 教育研究等の質の向上に関する目標	報告No.	38	7	30	1	0	18%	79%	3%	0%	120	3.16
1 教育に関する目標		17	4	13	0	0	24%	76%	0%	0%	55	3.24
(1) 教育内容、方法及び成果に関する目標	No. 1~8	8	2	6	0	0	25%	75%	0%	0%	26	3.25
(2) 教育支援体制に関する目標	No. 9~13	5	0	5	0	0	0%	100%	0%	0%	15	3.00
(3) 学生の確保に関する目標	No. 14~17	4	2	2	0	0	50%	50%	0%	0%	14	3.50
2 研究に関する目標	No. 18~19	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
3 学生支援に関する目標	No. 20~37	18	3	14	1	0	17%	78%	5%	0%	56	3.11
4 大学改革に関する目標	No. 38	1	0	1	0	0	0%	100%	0%	0%	3	3.00
第3 地域貢献、国際化に関する目標		15	3	10	2	0	20%	67%	13%	0%	46	3.07
1 地域貢献に関する目標	No. 39~46	8	1	5	2	0	13%	62%	25%	0%	23	2.88
2 国際化に関する目標	No. 47~53	7	2	5	0	0	29%	71%	0%	0%	23	3.29
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標		19	1	18	0	0	5%	95%	0%	0%	58	3.05
1 組織運営の改善に関する目標	No. 54~57	4	1	3	0	0	25%	75%	0%	0%	13	3.25
2 人事の適正化に関する目標	No. 58~61	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
3 広報活動の充実に関する目標	No. 62~63	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
4 ハラスメント防止対策等に関する目標	No. 64~72	9	0	9	0	0	0%	100%	0%	0%	27	3.00
第5 財務内容の改善に関する目標		4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
1 経営の効率化に関する目標	No. 73~74	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
2 自己収入の増加に関する目標	No. 75~76	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
第6 自己点検・評価及び情報公開・提供に関する目標	No. 77~79	3	0	3	0	0	0%	100%	0%	0%	9	3.00
第7 その他業務運営に関する重要目標		6	0	6	0	0	0%	100%	0%	0%	18	3.00
1 施設設備の整備・活用等に関する目標	No. 80~81	2	0	2	0	0	0%	100%	0%	0%	6	3.00
2 安全管理に関する目標	No. 82~85	4	0	4	0	0	0%	100%	0%	0%	12	3.00
合 計		85	11	71	3	0	13%	83%	4%	0%	263	3.09

平成27年度計画	
大項目別における評価	
評価IVⅢの割合	判定
97%	B

87%	C
-----	---

100%	A
------	---

100%	A
------	---

100%	A
------	---

100%	A
------	---

4 全体評価

(1) 総評

宮崎公立大学は、「高い識見と国際的な視野を持つ人間性豊かな人材を育成するとともに、広く地域に開かれた大学」という建学の理念のもと、教育研究や地域貢献の充実に積極的に取り組んできたところである。

本年度は、6年間の第2期中期目標期間の3年目となる平成27年度の業務実績について、その内容を点検したところである。その結果、評価委員会としては、年度計画を十分に達成できなかった取組も一部に認められたが、全体的には、概ね計画を順調に実施できたものと評価している。

具体的には、教育研究等の質の向上に関するものでは、「新旧カリキュラムの運用」について、現行カリキュラム導入2年目に際し、新旧カリキュラムが混在することによる諸問題に対して、出席管理システムの早期導入など課題解決のため迅速に対応したことが評価できる。

また、「入試広報」について、進学ガイダンスやキャンパスガイドの際に、タブレット端末やスライド写真集等を用いた視覚的な説明を行うとともに、スタンプラリーを取り入れた施設見学や在学生とのふれあいを含めた個別相談の機会を増やすなど、実施内容を工夫したことも高く評価できる。

さらに、「私費外国人留学生の奨学金制度」について、具体的に検討を行い、「MMU成績優秀者奨学金D」を創設し、平成29年4月以降に入学する私費外国人留学生入学者から適用することとしたことも高く評価している。

一方で、「英語向けリメディアル教育の組織的な実施」については、まずは環境整備が必要であり、現状の体制で組織的な取組を実施するには課題があるという理由から、Ⅱ（年度計画を十分には実施できていない）と評価した。

この教育は、学生に不足している基礎学力を補うものであり、学生が高い学習意欲をもって充実した学生生活を送るために必要なものであることから、組織的に取り組む方策の早急な策定及び実施を求めたい。

また、大学の地域貢献に向けた取組についても、「地域研究センターの機能強化」など評価の低い項目があるため、なお一層進めていただくよう求めたい。

今後も、個性ある大学づくりに教職員が一体となって取り組み、地域に根ざし、地域に愛され、地域に開かれた大学として、一層の発展を期待する。

(2) 今後の課題

- ①英語向けリメディアル教育については、学生のために必要な教育であることから、組織的に取り組む方策を早急に策定し、実施していただきたい。
- ②みやざきCOC+事業については、学生にとってもメリットのある事業であることから、研究領域の充実も含め、さらに推進していただきたい。
- ③地域研究センターについては、研究領域の強化が学生への教育内容の改善につながり、そのことが入学志願者の増加をもたらすと考えられることから、早急な機能強化を図っていただきたい。
- ④学生の留学支援については、他大学の取組等も参考にしながら、さらなる充実を目指していただきたい。

